よく分かる！

正しい床ずれの予防と介護

●これだけは知っておきたい床ずれ介護の知識

床ずれ予防・治療の第一人者 美濃良夫先生が語る

1 これだけは知っておきたい床ずれの発生原因と深達度
2 床ずれを発生・進行させない鉄則
3 正しいスキンケアの鉄則
4 役立てましょう！床ずれ防止具

生命を包む世界品質
ACTION JAPAN

2015年4月発行

これだけは知っておきたい
床ずれの発生原因と深達度

床ずれができる原因と、その程度の目安となる深さを知っておかなくては、
効果的な予防や介護はできません。

■はじめに…

寝たきりや座りっきりの人にとって、最大の脅威が床ずれです。しかし、正しい床ずれ予防や介護の方法はあまり知られておらず、本来床ずれを防げたはずのケースでも、間違った方法により発生したり、進行してしまった例が多くあります。床ずれは一度できてしまうと簡単には治らず、患者はもちろん介護者にとっても肉体的、精神的に非常に大きな負担となるばかりか、場合によっては合併症によって、命取りとなることもあります。

この冊子が皆さんにとって、床ずれに関する基本的な知識と、正しい予防方法、介護方法を身につけて頂くお役に立てれば幸いです。

〈注意〉この冊子の内容は、一般的な予防や介護方法について説明されています。疑問に思われることがありましたら、弊社までお問い合わせ下さい。

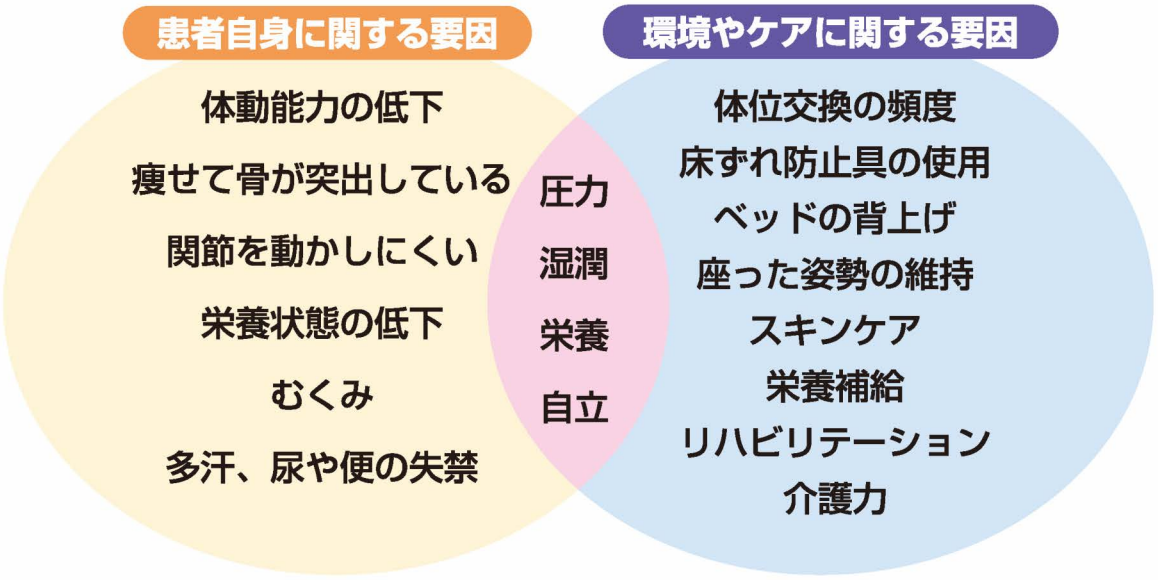
監修
日本褥瘡学会理事　美濃良夫

阪和第一泉北病院副院長。ABCラジオや朝日テレビ等に多数出演中。厚生省発刊の『褥瘡の予防・治療指針策定のための研究報告書』作成者の一人でもあり、数々の床ずれ予防・治療マニュアルを執筆。98年秋発足の日本褥瘡学会理事に就任。床ずれの予防・治療の第一人者として、広く内外で活躍中。

■床ずれはどうしてできるの？

同じ姿勢を長時間とることで、圧迫によって特に骨の突出部や脂肪の少ない部分の血流が悪くなり、壊死に至ってしまいます。これが床ずれ（＝褥瘡）です。床ずれが悪化すると、患者の身体的・精神的な負担が増すばかりか、感染症などの危険も増大してしまいます。

床ずれは、圧力が最も大きな原因ですが、その他にも患者自身に関する要因、患者を取り巻く環境やケアに関する要因など、様々な要因が絡み合って起きる総合疾患です。床ずれ予防は、体位交換を行なう介護者や看護師はもちろん、医師、理学・作業療法士、栄養士等が一体となって取り組まなければなりません。



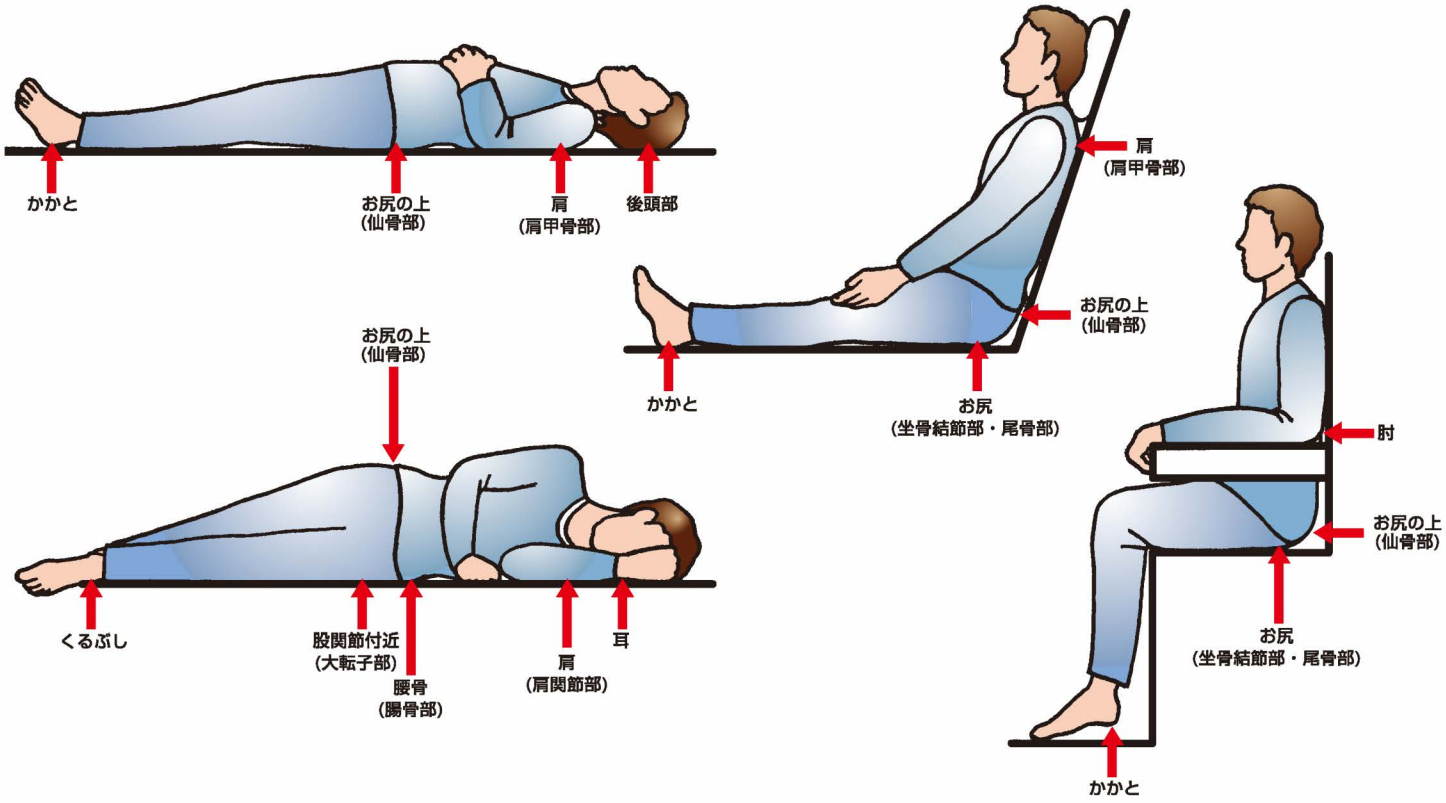
＊日本褥瘡学会資料より抜粋。一部の医学用語を一般向けに変更しています。

■床ずれのできやすい部位

床ずれのよくできる部位は、個人差はあるものの大体決まっています。それは、「骨の突出がある」「体重がかかる」「皮下脂肪が少ない」、あるいは「ズレが生じやすい」などの部位です。

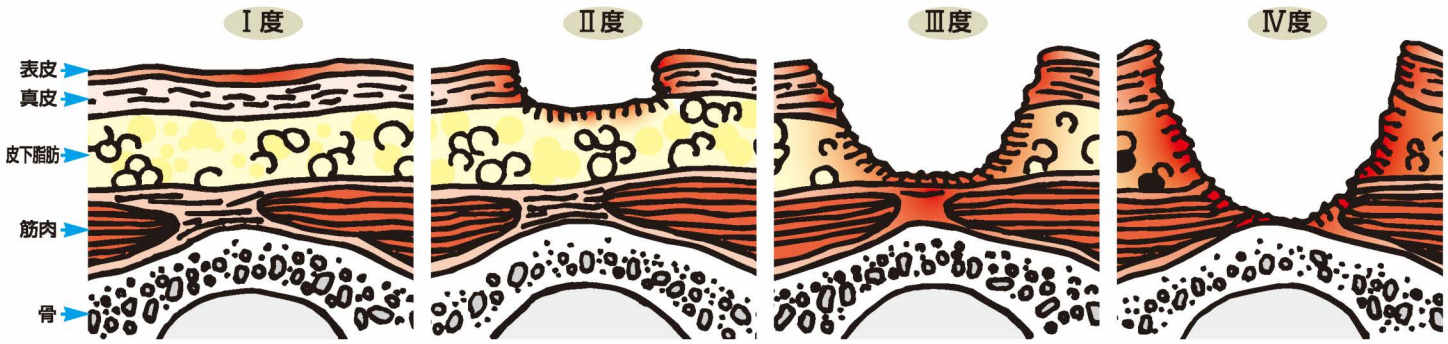
体位によって床ずれのできやすい部位は変わります

※図で表示されている矢印は、床ずれのできやすい部位ですので、特に注意して初期の段階で床ずれを見つけるようにしましょう!



■床ずれの深さレベルについて

床ずれは、その深達度によって多くの分類方法があります。ここでは介護に便利な「NPUAP(全米褥瘡諮問委員会)による分類方法」をご紹介します。患者の床ずれの状態を知ることは、とても重要なことです。



Ⅰ度	Ⅱ度	Ⅲ度	Ⅳ度
周辺部と明確に異なる連続的な発赤。〈皮膚の温度〉〈組織の硬さ〉〈痛みやかゆみの感覚〉の一つ以上の違いが含まれることが多い。	皮膚または真皮、或いはその両方を含む皮膚の損傷。表皮剥離や水泡、浅いクレーター状を呈する。	皮下組織の損傷または壊死を伴う皮膚全層の損傷。深いクレーター状を呈し、隣接組織に下掘れが見られることもある。	広範囲の組織破壊及び壊死、または筋肉や骨などの損傷を伴う皮膚全層の損傷。

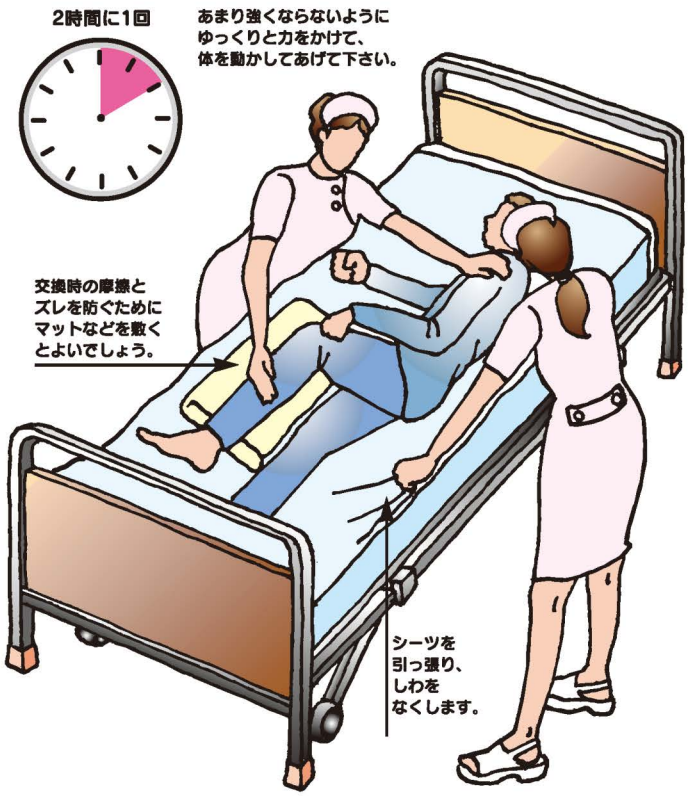
＊日本褥瘡学会の提唱する「DESIGN（褥瘡状態評価と分類スケール）」では、Ⅰ度は持続する発赤としています。また、Ⅳ度よりも更に深いところや関節の中に至る損傷、または壊死組織などで深さの判定ができない状態をⅤ度としています。

床ずれを発生/進行させない鉄則

床ずれは少しの時間と油断でできますが、治すには多くの時間と根気が必要です。

■体位交換って？

体位交換とは、体の向きや姿勢を変えることです。人は、起きている時はもちろん、眠っているときも無意識に寝返りをうって、体の一部分に圧力が長時間かかることを避けています。しかし寝たきりや車椅子の人は、この体位交換ができないか、できたとしてもかなり制限されてしまいます。通常、床ずれ予防には２時間に１回の体位交換が必要とされていますが、健康状態などの要因によっては、更に短い時間での体位交換が必要です。



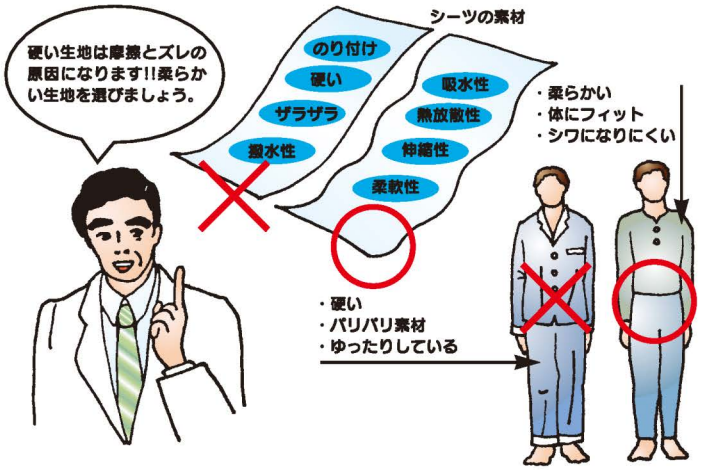
■若いから、健康だからと油断は禁物

確かに若く健康な人の方が、同じ条件では、床ずれはできにくいでしょう。しかし、油断は禁物です。例えば、全身麻酔下の手術中は、体位交換が一切できません。２～３時間以上の手術では、軽症のものも含めますと床ずれなどの皮膚障害は必ず発生するといっても過言ではありません。

また、交通事故で入院した若い人にも床ずれができることもあります。このように、床ずれは年齢や健康状態を問わず誰にでもできる可能性があります。

■パリパリの寝具は厳禁!!

今でもねまきやベットシーツに硬い素材が使われていたり、ひどい場合はのり付けでパリパリになっていることがあります。また、ねまきのしわは湿ると硬くなります。「硬い」ことは、床ずれができる原因となりますので、その素材には注意が必要です。縦横いずれかに伸びる柔らかい素材のものを、ベッドシーツの場合はきつく巻き込まずゆったりと、ねまきの場合は体格に合ったものをしわができないように装着するとよいです。



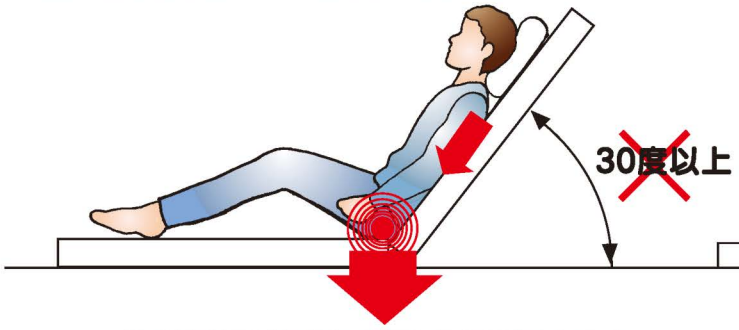
■栄養状態にまで気をつかおう!!

床ずれの大きな原因でありながら見落とされがちなのが栄養状態の悪化です。栄養状態が悪いと床ずれが発生しやすくなるうえ、傷が治癒するために必要なタンパク質、炭水化物、ビタミン、鉄、銅などが不足すると床ずれは治りにくくなります。寝たきりの人にとって食事は大きな楽しみのひとつです。医師や看護師とよく相談して、制限がなければ、タンパク質を多く含んだ好みの食品を食べさせてあげるのもよいでしょう。

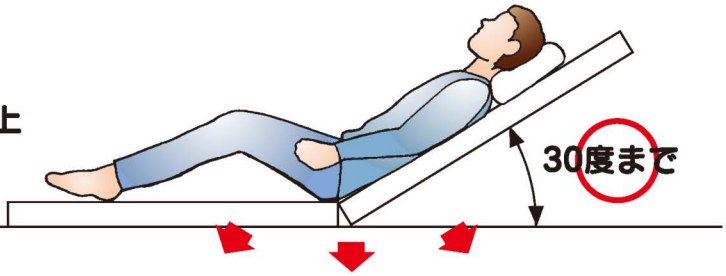
■ギャッジアップは30度までに!!

寝たきり状態はよくないからとベッドをギャッジアップすると、お尻で体重の大部分を受け止めることになり、寝ている状態よりもお尻に大きな圧力がかかります。そればかりか体がずり落ちるために、背中や腰の皮膚に摩擦やズレを生じてしまい、床ずれが発生する危険性が高くなってしまいます。

ギャッジアップをする時は、体がずり落ちないように、まず膝を曲げて固定してから上体を30度まで上げます。30度以上に上げる必要がある場合は、特にお尻の皮膚の状態に注意しながら、長時間同じ姿勢にならないように気をつけましょう。



ズレが生じるばかりか、お尻に圧力が集中します。



体がずり落ちず、圧力も分散されています。

■安易な円座の使用はやめましょう!!

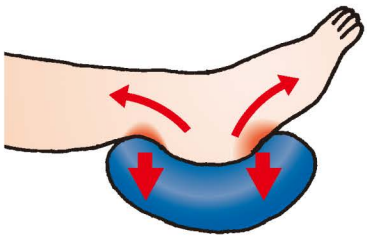
円座は床ずれ防止具として多く販売されていますし、床ずれ予防講習等でも広く紹介されていました。
しかし近年の研究では、いくつかの問題点が指摘されています。
その主なものだけをご紹介します。

①中心部がくりぬかれているので、円座周囲の狭い面積で重量を支えなければならず、局所的に圧力がかかる。

②中心部の皮膚が周囲に引っ張られてしまうので、ズレと圧迫が生じるだけでなく、血液の流れも阻害してしまう。

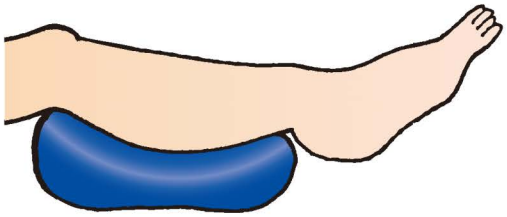
③床ずれはある程度進行すると、床ずれ部位ではなく周囲に痛みを感じるので、本来中心部に床ずれの部位がくるようにしていたのを、患者が自分で位置を動かして、床ずれ部位を円座の周囲に当ててしまう。

④円座を正しく床ずれ部位に当てようとすると、動きが制限されてしまう。



皮膚が引っ張られるので、摩擦とズレが生じます。

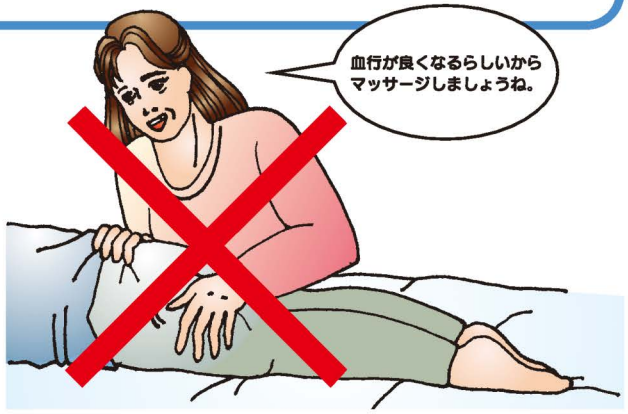
局所的に圧力がかかってしまい、血液の流れを阻害してしまいます。



かかとの床ずれを予防するには、ふくらはぎから足首までの範囲にクッションを入れると良いでしょう。かかと部分に大きな圧力が加わらないように配慮された高機能のマットレスもあります。

■床ずれ部位のマッサージは厳禁!!

床ずれは、圧力により血の流れが悪くなるために発生するということから、床ずれの初期症状である発赤ができた時にマッサージをすることがありますが、これは厳禁です。皮膚の表面が発赤程度でも、その下の広い範囲ではもっと強い損傷を受けていることがあります。マッサージによって、損傷がさらに強くなってしまいます。



正しいスキンケアの鉄則

スキンケア不足と間違ったスキンケアは床ずれを発生/進行させます。

■スキンケアって何？

スキンケアとは皮膚のお手入れのことで、基本は「常に清潔に保ち、湿潤を避ける」ということです。今までの床ずれ予防はスキンケアまで行き届いた介護は少なかったというのが実情ですが、本来は床ずれ予防にとって欠かせない重要なテーマです。だだし、間違ったスキンケアは床ずれを発生／進行させてしまいますので、注意が必要です。

■できる限り入浴をしましょう!

日本人は非常にお風呂好きです。床ずれができていると、入浴はよくないと思われがちですが、全身状態がよければ、医療用のフィルム材などで床ずれ部位を密閉して、できるだけ多く入浴した方がよいのです。軽い発赤なら密閉も必要ありません。また粘着テープを使って密閉する時は、テープが床ずれ部位とその周囲にかからないように注意が必要です。入浴は、皮膚の清潔を保つうえ、血行をよくしますので、床ずれの予防や治癒に大きな効果があります。

〈入浴の豆知識〉

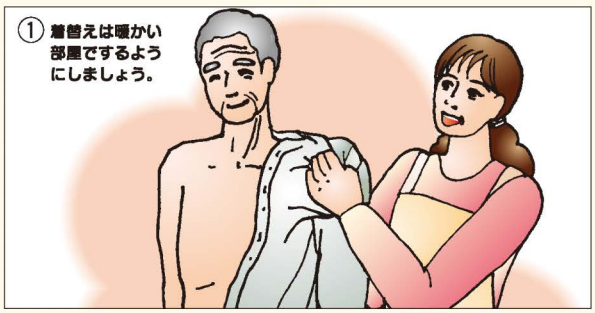
日本では年間1万人以上の人が入浴中に死亡しています。その多くは65歳以上の高齢者ですが、海外に比べてこれほど死亡者が多いのは、入浴の方法に問題があるようです。寝たきりの方の多くは健康状態や体力が通常より弱くなっていることが多いので、次の点に注意して危険のない入浴を楽しんで下さい。

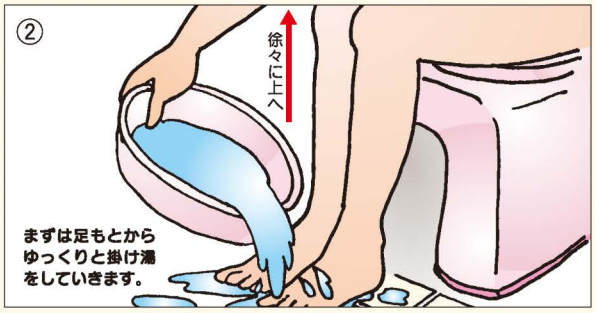
①服を脱いで寒いと感じた瞬間から毛細血管が収縮し、急激な血圧上昇を起こしますので、できるだけ暖かい部屋で脱がせてあげて下さい。

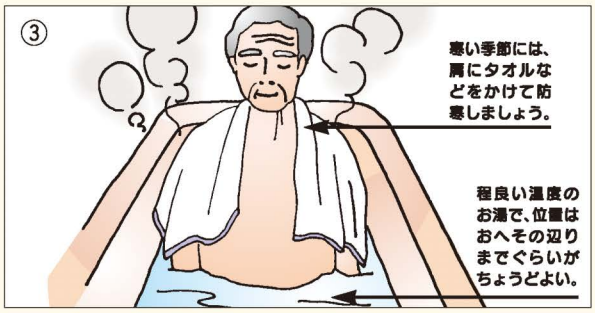
②足から徐々に上半身にかけ湯をしながらゆっくりとお湯に浸かって下さい。日本人は熱いお風呂が好きですがこれは最も危険な入浴方法で、毛細血管が拡がることで急激な血圧低下を起こします。そこで、お湯の温度は37～38度くらい（皮膚の損傷が強い時は34～36度）とします。

③体温の過度の上昇や血圧の急低下を防ぐことと、心臓や肺への水圧による負担を減らすため、半身浴がよいでしょう。全身がお湯につからなくても血行はよくなります。冬などで寒いときは肩にお湯やタオルをかけて下さい。

④入浴によって汗をかくと、水分が失われて血液が粘っこくなり、脳梗塞や心筋梗塞の危険が生じます。高齢者は喉の渇きに鈍くなっていることがあるので、水分を補給してあげて下さい。







■床ずれ部位の乾燥は厳禁!!

皮膚の湿潤は、床ずれの原因になりますので、蒸れの防止と皮膚の適度な乾燥は必要ですが、床ずれ部位をドライヤー等で乾燥させることは絶対にしてはなりません。乾燥させると白血球やマクロファージ、細胞成長因子という床ずれを治す細胞や因子の働きを止めてしまうだけでなく、せっかく再生した組織が脱水で死んでしまったり、細菌が増殖する原因となってしまいます。ただし膿や滲出液が多い時は、洗浄や吸収が必要になります。きずには、適度な湿潤が必要なのです。

■床ずれ部位の消毒は注意しましょう!!

一般には、洗浄が十分であれば、消毒は必要ないといわれています。皮膚や床ずれ部位には細菌が存在するのが当たり前です。仮に消毒を行ったとしても、細菌は数時間後には増殖して元の数に戻ってしまいます。そればかりか強い消毒液は床ずれの治癒に必要な細胞や再生した組織にも障害を与えてしまいます。消毒液の使用には十分な注意が必要です。

■できるだけおむつは避けましょう!!

介護する側からすると、おむつの使用は非常に便利ですが、使う人にとっては精神的にとてもつらいものです。特に密閉度の高いおむつは、蒸れやすいので、床ずれの原因になる可能性があります。できるだけ排泄の自立訓練や治療を行って、尿器や便器が使えるようにしましょう。また、もしもおむつを使用する時は、濡れていればできるだけ早く交換するか、撥水性クリームの塗布などで肌に排泄物が接触しないようにして下さい。

■床ずれ部位の清拭は厳禁!!

健康な人でも、すり傷を洗うことはあっても拭きとることはないように、床ずれ部位は洗浄するものであって、清拭するものではありません。清拭は摩擦を加えることになるので、弱った皮膚を傷つけることになってしまいます。また、布に付着した細菌を床ずれ部位にこすりつけたり、床ずれ部位の細菌や膿を周囲の皮膚に拡げてしまう結果にもつながります。

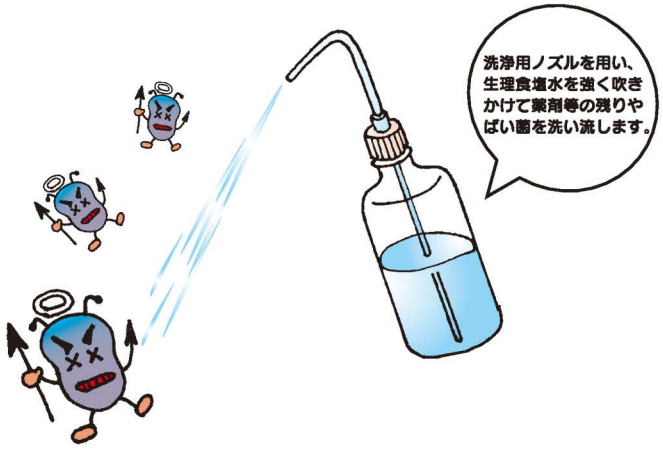
■日光浴は床ずれ部位をカバーして!!

適度な日光浴は精神的にも肉体的にも健康的ですが、床ずれ部位に関しては避けた方がよいです。太陽光の紫外線は殺菌力が強く、皮膚の再生を阻害する可能性があります。またドライヤー同様に患部を乾燥させて治癒を遅らせますので、窓から日光が当たる場所も含めて、太陽光が床ずれ部位に直接当たらないようにしなければなりません。

■床ずれ部位は十分に洗浄しましょう!!

床ずれ部位に残っている薬品や膿、細菌などの異物を洗い流すことは、治癒にとても貢献します。十分な量の生理食塩水や水で、少し水圧をかけて洗浄するとよいでしょう。消毒液や洗剤は混ぜてはなりません。床ずれが進行してポケット状にえぐれている時は、ポケットの中も十分に洗浄します。また出血や剥離の原因となるため、洗浄の時にガーゼや綿球などでこすってはなりません。

なお、床ずれの周囲を石鹸で洗浄することは、衛生上、治癒上でとても有効です。ただし、皮膚の下に損傷を受けていることがあるので、強い力はかけないようにしましょう。



介護者の負担をやわらげます

役立てましょう!床ずれ防止具

患者さんの状態によって、最適な床ずれ防止具を正しく活用しましょう。

■床ずれ防止具の役目って？

床ずれの最大の原因である圧力に対して、最も効果的な予防方法は体位交換ですが、実際には昼夜を問わず２時間に１回の体位交換を行うことは、介護者の体力的、金銭的、時間的なことなどを考えるとなかなか困難です。そこで、床ずれ防止具の出番です。それぞれが圧力分散を考えて開発されていますので、使わない状態に比べて体位交換の回数を減らすことができます。

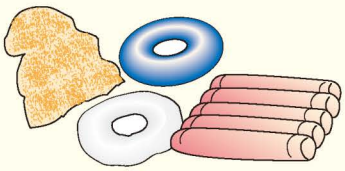
■床ずれ防止具は万能ではありません

床ずれ防止具を使えば体位交換をしなくてもよいと考えている方や宣伝をしている商品がありますが、これはとても危険です。体位交換は床ずれを予防する以外にも、体の下側に血液が溜まることを防いだり、かけがえのないコミュニケーションを行う役目もあるのです。また、床ずれ防止具の性能も千差万別ですので、すべてを頼りきってしまってはいけません。

■床ずれ防止具を選ぶ時のチェック項目

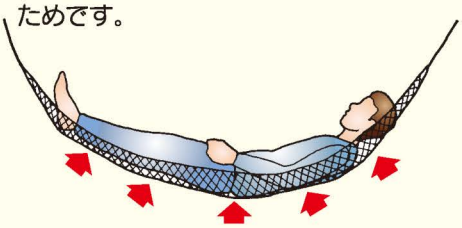
防止具を選ぶ時のチェック項目

床ずれ防止具としての最低の条件は圧力分散ですが、この圧力分散というものは、なかなか体感することができません。健康な人にとって寝心地のよいベッドでも寝たきりの人の場合は床ずれができてしまうことがあります。そこで、効率のよい床ずれ防止具かどうかの目安として次の5点を確かめてみるとよいでしょう。



①必要以上に沈み込まないかどうか

ある程度沈むことは、圧力分散と接触面積を多くする点から必要ですが、厚みがあり過ぎて必要以上に沈み込むと「ハンモック現象」が起きて、体の両サイドや肩や腰などの突出した部位に圧力が集中してしまいます。ふわふわのソファーの方が長時間になるとしっかりしたソファーよりも疲れやすいのはこのためです。

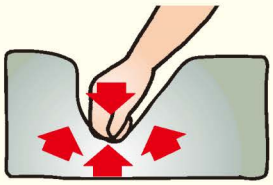


②底づきしないかどうか

床ずれ防止具に寝た時に、体の一部がベッドマットレスや布団などについてしまうことを「底づき」といいます。底づきしてしまうと、それ以上圧力分散ができません。つまり、底づきをしにくい方が、圧力分散能力が高いといえます。

③押し返してこないかどうか

空気や水を使った床ずれ防止具で特に注意しなければならないのは、量が多すぎると空気や水は押し返す力が強いということです。押し返す圧力が高いと、逆に床ずれの危険性が大きくなります。エアーマットの場合は、この押し返してくる力を制御するために、体重に合った空気圧調整ができるタイプがよいでしょう。



④表面はザラザラしていないかどうか

寝たきりの方の皮膚は弱っていることが多く、少しの擦れで傷つき、床ずれの原因となってしまいます。そのため、マットの表面で指を縦横に滑らせてみて、いずれか一方でもザラザラするような床ずれ防止具は避けた方がよいです。

⑤保守サービスのしっかりした企業かどうか

近年、介護ビジネスに参入する企業も多いですが、２～３年で撤退してしまい購入した後に故障が起きても対応してもらえないケースも増えています。保守サービスをしっかりしている企業かどうかは、

① メーカーの連絡先が明記されているかどうか
② 保証期間や耐用年数について明記されているかどうか
③ 製品の性能や床ずれに関する質問に対して、しっかりと対応できる窓口があるかどうか
④ 販売実績や公的機関の試験結果などの裏付け資料があるか

等を目安とするとよいでしょう。

■間違うと危険です！患者の状態にあった床ずれ防止具を

床ずれ防止具には様々なタイプがありますが、その選び方を間違うことで患者の身体能力を低下させてしまうようなケースも増えています。例えば、体動能力の残っている人にエアマットや厚みのある低反撥ウレタンフォームなどを使用すると、体が沈みこむために動きにくくなったり、起き上がりにくくなったりしてしまいます。すると体を動かそうとする意欲が萎え、筋肉が萎縮することなどで半寝たきりの人が完全寝たきりになってしまう事もあるのです。

もう一つ床ずれ防止具の選び方を間違うことで怖いのは、床ずれができたり悪化することです。必要以上に高機能やクッション性の高い床ずれ防止具を使用することは、前述の通り身体能力の低下に繋がりますが、逆に床ずれのできる危険性の高い患者に低機能の床ずれ防止具を使うことも危険です。つまり、初めにどのレベルのどのタイプの床ずれ防止具を使うかということも大切ですが、患者のその時々の状態に応じて床ずれ防止具を使い分ける必要があります。

■主な床ずれ防止具の特徴について

一般的な特徴ですので、詳しい特徴については各メーカーにお問い合わせ下さい。

ウレタンフォーム

製品によって厚みが様々です。材質（弾力性や反発性など）が同じであれば、厚みがあるほど圧力分散能力は高いですが、体の沈み込みも多くなります。低反撥ウレタンフォームの多くは低温でかなり硬くなりますので、冬季には注意が必要です。価格が比較的安価であることと、電源や調整がいらないというメリットがあります。体の沈み込みを抑えるために、硬めのウレタンフォームと組み合わせるなどした商品もあります。

エアマット

大きくは静止型と圧切り替え型とがありますが、厚みが増すほど体の沈み込みは多くなります。圧切り替え式エアマットは、電源が必要でモーター音などもありますが、圧力分散能力は全体的に高く、自力で体位交換ができない患者等で圧力分散を最優先するケースに適しています。最近では、ベッドの背上げや体動能力に対応したタイプの商品もあります。

流動性ゲル

中身が軟らかく流動性なので、床ずれ部位の痛みを緩和することには適していますが、体が沈み込み易く、表面のフィルムが破損すると中身が流れ出てしまいます。また、耐熱性や耐薬品性、耐久性に乏しいものもあり注意が必要ですが、材料の性質上、熱が籠もりにくいことや、電源や調整がいらないというメリットがあります。

固体性ゲル

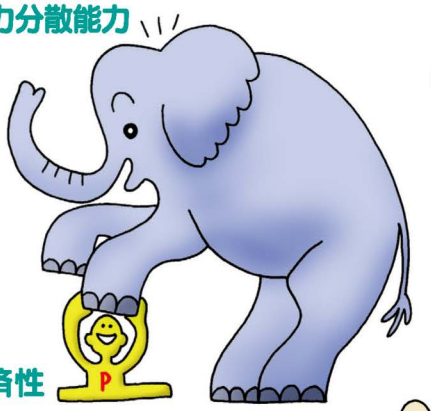
体の沈み込みはほとんどなく安定感に優れていますが、様々な材質の商品があり、中には底づきをしやすいものもあるので注意が必要です。どの商品も比較的重いという問題点はあるものの材料の性質上、熱が籠もりにくいことや、電源や調整がいらないというメリットがあります。流動性か固体性かは見た目や感触だけでは分かりませんので、カタログ等で確認する必要があります。

自立支援型床ずれ防止具

アクションパッド

体を動かす（体動）能力の残っている方に、エアーマットや分厚い低反撥ウレタンフォームなどクッション性の高い床ずれ防止具を使うことは、体が沈み込むことで動きにくくなったり、リハビリや介護の妨げとなってしまいます。世界58カ国で50年以上の販売実績を誇り、国内数千件以上の臨床試験、お客様アンケートで常時95%以上のケースで優れた評価を受けるアクションパッドは、大切な人の**残存能力と介護する方の負担を十分に考えて開発**され、ベッドでは安定した寝心地を、車椅子では快適な座り心地をご提供することで**自立を支援**します。

ポイント1 バランスを考えた圧力分散能力

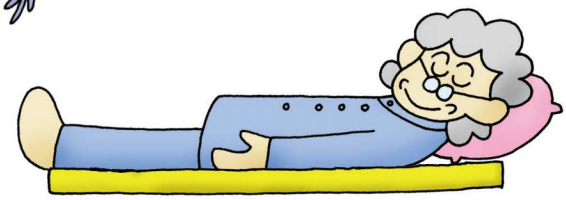


●底づきせず、硬くならない●

アクションパッド（厚さ2.2cm）を硬いテーブルの上に置いて、膝で全体重をかけたとしても、膝が硬いところまで行き着くことがありません。アクションパッドの底づきの限界は600kgと驚異的に高く、しかもその柔軟性は不変で材質そのものが硬くなることはありません。“柔らかいのに底づきしない”そんな不思議なアクションパッドは、いつも体を優しく支えます。

●沈まない、押し返さない●

必要以上に沈み込むことは、体の両サイドや骨ばったところに圧力が集中する「ハンモック現象」の原因となるばかりか、自立の妨げとなってしまいます。また、体重をかけた時に押し返してくるようでは、それが圧力となってしまいます。アクションパッドは沈み込まず押し返さずと基本に忠実です。



ポイント2 抜群の耐久性と経済性

試験所テストでは25年間材質変化しないことが確認されています。万が一フィルムが破損してもオイルや中身が流れ出たり型崩れすることがありません。また、電気やメンテナンスが一切不要ですから、とても経済的です。

ポイント3 自立を支援する安定性

沈み込まず抜群の安定性を誇るアクションパッドは、使われる方の体動能力やリハビリの妨げとならず、ベッドから車椅子への移乗なども大変スムーズにでき、床ずれ防止と自立を両立することが可能です。さらにクッション性の高いマットに多い腰痛や、エアーマットに多い「ふわふわして落ち着かない」「車酔いのようになる」「モーター音が気になる」などの問題点もほとんどありません。

ポイント4 お手入れが簡単で衛生的

石鹸での丸洗いやエタノールなどでの消毒が可能です。また−30度から100度まで耐熱性がありますので、熱湯消毒もできます。臭いや汚れが簡単に落とせますので、いつも衛生的にお使い頂けます。

ポイント5 電気なし、音なし、故障なし

機械ではありませんので電源は必要とせず音も故障もしません。停電によってエアーマットが使用できなくなった阪神・淡路大震災等でも相当数のアクションパッドが活用され、現在でも現役で活躍しています。

●お客様の声

弊社では、アクションパッドをご購入のお客様にアンケート調査を行っております。多数頂いている全国のお客様のご感想の中から一部を今回掲載いたしました。（敬称略）

●聖フランシスコ病院
使用前は、半信半疑でしたが、腹臥位、側臥位の症例を始め、長時間の手術でも発赤すら残らないといった現状です。驚くほどの効果にスタッフ一同満足しており、今では必需品となっています。

●山口県立中央病院
エアーマットの代わりに使用しています。頸椎の手術後や体位交換のできない患者さんに使用していますが、発赤等は見られず、スタッフ間でも好評です。

●西条中央病院
当手術室では、色々な素材を使ってクッションや枕を作っていますが、アクションパッドは一番評価が高く、除圧効果も証明することができました。アクションパッドの良い点は、素材だと思います。

●日本医科大学附属第二病院
長時間の同一体位を強いられる手術室では、循環障害の予防にアクションパッドが大変役に立っています。価格が安ければ、数を増やし全ての手術患者に使用したいと思っています。

●新宿小田急百貨店　介護用品売り場
正直言ってアクションパッドは高価な商品なので、お客様にその良さをなかなか簡単には理解していただけません。しかし、優れた圧力分散効果があったり、耐用年数が長いという事を説明し、お客様に納得して購入して頂いております。

●新潟県南部郷総合病院　手術室
頭部用アクションパッドを購入。良いものがあるとの情報が病棟に伝わり、現在ICUで熱傷の重傷者に貸し出しています。病棟にも欲しいという声があがっています。

●京浜病院
車椅子使用の患者が仙骨部に褥瘡ができ、どのような処置でも改善されなかったが、貸し出し用アクションパッドを2週間使用で著明に改善。返却後悪化。購入し使用したところ、良好で効果に驚いている。

●宮崎医科大学附属病院
難点は重たいこと。しかし、アクションパッドを使用してからは、褥瘡が出来にくくなりました。カバーにひもがついているので、持ち運びやすく、便利です。

●社会保険仲原病院
顔面にあてても刺激がなく、ソフトで跡形がつきません。また汚れても洗浄でき、乾燥が良いので清潔に使えます。更に手術中の体位をとるのにとても便利です。

アクションパッドは、ベッド用、車椅子用など以外にも手術台用、肘・かかと用・体位安定用など１００種類以上の様々なサイズや形状を取り揃えており、ご購入前の無料お貸し出し商品をご用意しております。カタログをご希望の方は、販売店か弊社までお申し付け下さい。

ベッド用アクションパッド

体動能力や床ずれの危険度、介護力などによって選んで頂けるよう、肩から腰くらいまでをカバーする必要最小限のサイズから全身用まで４種類のサイズをご用意しました。

#6100　スタンダード　カバー付　**¥41,800（税抜）**
サイズ：D43×W68.5×H2.2cm、重さ：6.6kg
別売カバー：¥1,800（税抜・送料別）

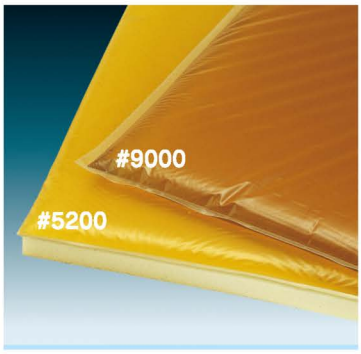
#6600　ミドルサイズ　カバー付　**¥72,600（税抜）**
サイズ：D68.5×W90×H2.2cm、重さ：13.0kg
別売カバー：¥3,500（税抜・送料別）

#6300　ダブルサイズ　カバー付　**¥83,600（税抜）**
サイズ：D68.5×W117×H2.2cm、重さ：18.0kg
別売カバー：¥4,000（税抜・送料別）

介護保険レンタル対象商品
#6303　ロングサイズ　カバー付　**¥93,500（税抜）**
サイズ：D68.5×W188×H1.5cm、重さ：23.0kg
別売カバー：¥4,500（税抜・送料別）

※上記商品は、ベット用スタンダードタイプ(#6100)になります。

車椅子用アクションパッド　その他サイズもご用意しておりますのでお気軽にお問い合わせください。



座っている状態は、お尻に圧力が集中します。車椅子の座り心地が悪かったり床ずれの危険性が高いと、車椅子に乗りたがらなくなり寝たきりの原因にもなります。お尻の圧力分散はもちろん凸凹道のショックも吸収するので不安感や不快感を取り除き、快適な座り心地をご提供します。

介護保険レンタル対象商品
#9000　カバー付　**¥31,000（税抜）**
D40×W40×H2.5cm　重さ4.5kg
別売カバー：¥5,000（税抜・送料別）

介護保険レンタル対象商品
#5200　カバー付　**¥31,000（税抜）**
D40×W40×H3.2cm（アクションパッド1.6cm+ウレタンフォーム1.6cm）　重さ2.8kg
別売カバー：¥5,000（税抜・送料別）

キュービックアクション

2cm四方のキューブとその間にある5ミリの溝が、平状タイプの商品よりも横方向のズレを軽減し通気性を良くします。後傾姿勢がやむを得えない場合や、ギャッジアップなどで体に横方向の力がかかる場合などに適しています。

介護保険レンタル対象商品
#9700　車椅子用　カバー付　**¥43,500（税抜）**
D40×W40×2.5cm　重さ4.1kg
別売カバー：¥5,000（税抜・送料別）

#6700　ベッド用　カバー付　**¥58,300（税抜）**
D43×W68.5×H2.2cm　重さ5.8kg
別売カバー：¥1,800（税抜・送料別）

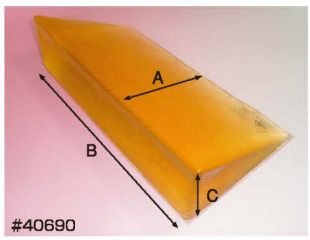
便座型アクションパッド

硬い便座は、高齢者や長時間トイレを利用する方には悩みの種です。“痛くない”座り心地を実現し、心やすらぐトイレタイムをお届けします。

#3200　カバー付　**¥17,600（税抜）**
（市販の便座カバー使用可）

#3300　カバーなし　**¥17,600（税抜）**
（裏面マジックテープ）

特浴用アクションパッド



「特殊浴槽での入浴をさらに快適に！」そんな現場の皆様のご要望を形にしました。水分、温度、薬液に強いアクションパッドだからこそできた特浴用ポジショナーは、背中や腰の痛みを緩和するだけではなく、円背の方の体位保持など、快適と安全をサポートします。

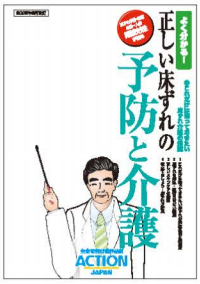
#40690　大サイズ　カバー付　**¥40,700（税抜）**
サイズ：20(A)×40(B)×10(C)cm、重さ：4.7kg

#40691　小サイズ　カバー付　**¥31,500（税抜）**
サイズ：20(A)×20(B)×10(C)cm、重さ：2.4kg

#40692　平状　カバーなし　**¥18,000（税抜）**
サイズ：D45×W30×H1.3cm、重さ：1.9kg

アクションジャパンがお届けする情報ツール

その1.床ずれ防止について、分かりやすく特別編集した冊子をご用意!



正しい床ずれの予防と介護

美濃良夫先生　監修
床ずれのできる原因から介護方法、スキンケアなど様々な情報が満載！

床ずれ力を科学する

米田隆志先生　監修
床ずれの2大要因の一つずれ力について、イラストを使って分かりやすく解説！

その2.業界最大級の情報量を誇るホームページ

ポイント1

床ずれの基礎知識や介護方法などについて分かりやすく解説しています

上記の「床ずれ防止マニュアル」や、「床ずれ力を科学する」はもちろん、様々な知識やデータが満載です。

ポイント2

海外の展示会情報が面白おかしくレポートされています

海外で開催される福祉機器展示会などの訪問道中記を、観光情報や業界の裏話などを盛り込んでレポートしています。

ポイント3

取り扱い商品のカタログや取扱説明書がダウンロードできます

お近くの介護ショップまで取りに行く時間がない方、取扱説明書をなくしてしまった、汚れてしまった方に便利です。

ポイント4

床ずれについてあらゆるご質問にお答えします

世界58カ国に展開するアクショングループが蓄積したデータを基に、原則として3営業日以内に皆さまのご質問にお答えします。

ポイント5

万全のサポート体制でお待ちしております

取扱商品のカタログや冊子、サンプル品など、皆さまのご要望に1日でも早くお応えできるよう、サポート専用ページをご用意しています。

●アクションパッドの無料モニター品をご用意しています。

生命を包む世界品質
ACTION
JAPAN

発行元・アクションパッド輸入総代理店
アクション ジャパン 株式会社
〒658-0046 神戸市東灘区御影本町2丁目9-16
アクションジャパンビル
TEL.078-843-5417　FAX.078-843-6817

アクションジャパン　検索

モニター 品のご依頼、商品についてのお問い合せは